

PHƯƠNG PHÁP GIẢNG DẠY TỪ VỰNG - CHỮ HÁN trong luyện thi năng lực tiếng Nhật trình độ cấp 1 dành cho sinh viên Việt Nam

NGUYỄN THỊ MINH HƯƠNG*

Kỳ thi năng lực tiếng Nhật chia làm 4 cấp độ (cấp 4, cấp 3, cấp 2, cấp 1) do Quỹ giao lưu quốc tế Nhật Bản tổ chức vào chủ nhật đầu tiên của tháng 12 hàng năm ở 51 quốc gia trên thế giới. Nghiên cứu này trình bày phương pháp giảng dạy chữ Hán, từ vựng nhằm chuẩn bị cho kỳ thi năng lực tiếng Nhật. **Phần I:** Tổng quan về hiện trạng các lớp luyện thi năng lực tiếng Nhật tại Hà Nội, phân tích so sánh với số lượng thi sinh dự thi, kết quả thi tổ chức tại Việt Nam từ năm 1996 đến nay. Trên cơ sở đó tóm tắt kinh nghiệm và phương pháp giảng dạy môn từ vựng, chữ Hán thông qua thực tế giảng dạy các khóa học luyện thi tại Trung tâm hợp tác nhân lực Việt-Nhật. **Phần II:** Phân tích so sánh 5 phương pháp giảng dạy chữ Hán, từ vựng: phương pháp dịch đối chiếu, phương pháp thị giác, phương pháp giải thích từ (bằng tiếng Việt và bằng tiếng Nhật), dạy từ vựng trên cơ sở cú pháp. Đồng thời phân tích ưu nhược điểm của 5 phương pháp trên khi áp dụng dạy ở trình độ cao (cấp 1). **Phần III:** Giới thiệu phương pháp dạy cụ thể áp dụng cho từng nội dung thi trong kỹ năng sử dụng chữ Hán, từ vựng gồm 7 nội dung: 1) Cách đọc chữ Hán, 2) Các chữ Hán đồng âm khác nghĩa, 3) Cách viết chữ Hán, 4) Từ đồng âm khác chữ Hán, 5) Lựa chọn từ vựng, 6) Từ đa nghĩa, 7) Chọn cách sử dụng đúng của từ. Ngoài ra, nghiên cứu còn chỉ ra một số điểm cần lưu ý trong khi giảng dạy từ vựng chữ Hán ở trình độ cấp 1.

日本語能力試験 1 級漢字・語彙指導法

—ベトナム学習者を対象とした—

はじめに

今年の 3 月からベトナム日本人材協力センター (VJCC) で日本語能力試験 1 級準備コースの漢字・語彙授業を担当することになって、教授経験が浅い筆者には荷が重く感じられた。しかし、先生が自信を持たないとよい授業ができないと考え、早速いろいろ準備を開始した。無事に準備コースが終了し、引き続き次の対策コースも担当することになった。今振り返ってみると、大変苦労したが、自分も勉強になったとしみじみ感じる。簡単ながら、このコースの指導から得た経験をまとめ、皆さんのお役に立てればと思っている。

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

語彙教育についての先行研究は、中條他（1992）のコミュニケーション活動が語彙の学習を促進するとする研究、倉八（1996）の語彙の習得を促進する指導法の提案、谷口他（1994）の学習者が語彙のネットワークをどのように形成していくのかという語彙習得に関する研究等がいくつかある。上級レベルでは藤原他（1997）は未知の語を貧欲に習得し語彙量を増やすとともに、初級・中級レベルですでに習得している基本語を質的に高めるという課題を取り上げた。しかしながら、日本語能力試験の形での上級レベル漢字・語彙指導に関する研究はほとんど見られない。本研究では実際の経験を踏まえ、日本語能力試験 1 級レベル漢字・語彙指導法について検討を試みた。

1. 学習者の学習環境

1.1. 日本語能力試験の来年度からの新形式

試験時間は3時間で、漢字・語彙45分（100点）、聴解45分（100点）、読解・文法（200点）で合計400点である。合格点数は280点（70%）以上とする。漢字・語彙の問題は問題Iから問題VIIまで、全部65問ある。すべて4つの選択肢から正解を一つ選ぶ問題形式である。

問題の内容は下記のとおりである。

問題I～IV : 漢字の問題

問題I	: 漢字の読み方 漢字⇒ひらがな	全15問	1問1点	計15点
問題II	: 同音異義熟語 漢字2字の言葉	全 5問	1問1点	計 5点
問題III	: 漢字の書き方 ひらがな⇒漢字	全15問	1問1点	計15点
問題IV	: 同音異字 ひらがな ⇒ ひらがな	全 5問	1問1点	計 5点

問題V～VII : 語彙の問題

問題V	: 文中の下線部に入れる言葉の問題	全15問	1問2点	計30点
問題VI	: いろいろな意味がある言葉の問題	全 5問	1問2点	計10点
問題VII	: 言葉の正しい使い方の問題	全 5問	1問2点	計10点

以上、全65問、計90点。

漢字・語彙得点＝各問題の得点の合計 ÷ 90 x 100

(松岡龍美『徹底分析日本語能力試験 漢字・語彙1級』 国書刊行会 2005年7ページ)

2010年から中国などの一部地域において年に2回行うこととなった。従来の12月実施に加えて、2010年の7月に現行試験1・2級のための試験を実施する。

また、これまで、3級に合格しても2級合格へなかなか手が届かないこと、1級より上のレベルの能力測定の希望があることなどにより、現行試験の4レベルから5レベルにレベル調整を行うことになった。従来の試験は上の級から1級、2級、3級、4級となっていたが、新試験では、N1-N2-N3-N4-N5となる。¹

(国際交流基金 『第2回日本語能力試験改定 中間報告』 2008年6月)

1.2. ベトナムにおける日本語能力試験1級受験状況

日本語能力試験は1996年からベトナムハノイで開始され、2000年からはハノイとホーチミンの2カ所で行われている。

ベトナムにおける日本語能力試験受験者数

レベル	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08*
1級	48	28	37	62	153	163	195	220	278	376	476	612	965
2級	139	155	200	293	586	710	856	1,048	1,261	1,752	2,751	3,952	6,483
3級	97	129	145	132	869	836	914	1,116	1,498	2,481	3,768	5,446	9,028
4級	35	65	42	31	349	347	256	337	524	650	1,095	1,507	2,644
合計	319	377	424	518	1,957	2,056	2,221	2,721	3,561	5,259	8,090	11,517	19,103

(*) : 2008年は受験申込者数

¹ 「N」は日本語とNEWなどからはじめの「N」をとった。

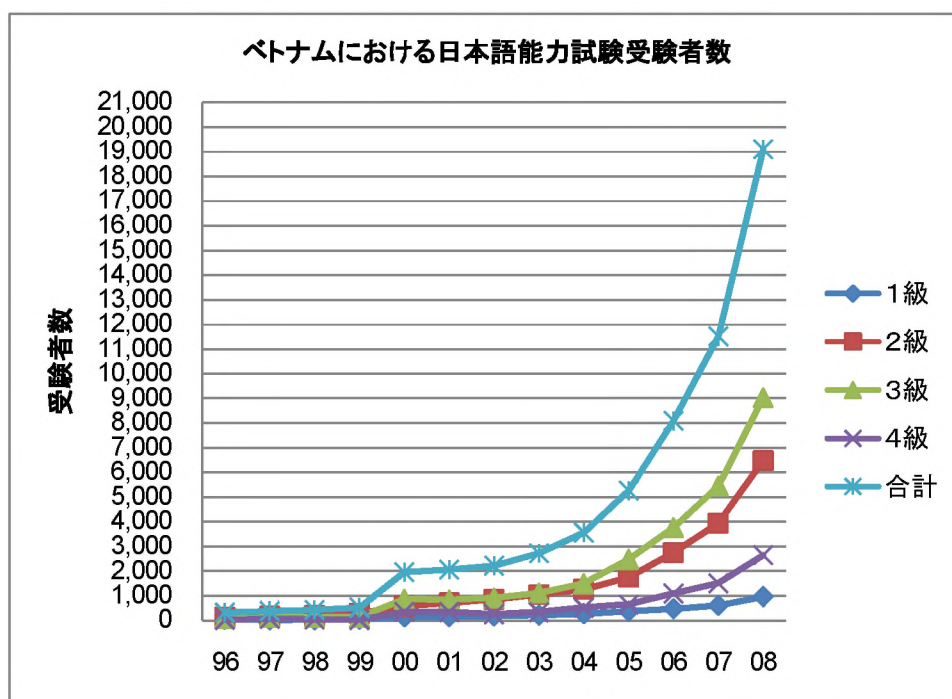
N1: 現行試験の1級と合格レベルはほぼ同じであるが、従来より若干高めの範囲まで能力測定ができるように改定する。

N2: 現行試験の2級とほぼ同じレベル

N3: 現行試験の2級と3級の間のレベル

N4: 現行の3級とほぼ同じレベル

N5: 現行の4級とほぼ同じレベル



(在ベトナム日本国大使館のデータにより、筆者作成)

上記のグラフによると毎年受験者が増えているが、特に 2004 年から受験者数が急増していることがわかる。近年日越関係の深化、ベトナムへの日系企業の増加によって日本語学習が年々盛んになっている。それが日本語能力試験受験者数の増加につながっている。2007 年 12 月はハノイが 4,358 名、ベトナム全土で 11,517 名近くが受験した。今年は申込者数はハノイとホーチミン合わせて 19,103 人にも上った。特に 3 級と 2 級の受験者数が多い。1 級レベルの受験者数は一番少ない。1996 年から 2007 年現在までベトナムでの 1 級受験者は 2,648 人で、そのうち合格者は 407 人 (15.37%) である。

1.3. ハノイにおける日本語能力試験 1 級レベルの学習環境

1 級レベルになると自習が一番効果があるのではないかと考えている人が多いようである。辞書で言葉の意味を調べることができるし、文法の解説がなくてもある程度理解できるからである。

しかしながら、実際には 1 級対策コースに参加する学習者が多い。卒業後仕事をしながら勉強する人は忙しく、言葉をいちいち調べる時間がない、また自習が苦手、勉強する動機をもちたい、十分に理解できないなど様々な原因が考えられる。特に、「実際に使っていない言葉は覚えにくい」「一回ぐらいでは覚えられない」「一生懸命覚えたものを使うチャンスがない」「新しく習った言葉はすぐに使用する機会がないと忘れる」という学生の声をよく聞く。ここ

から繰り返し学習・使用することの重要性がわかる。そのため、教師の指導が不可欠である。教師の指導において、新語彙を教える際、記憶につながるよう、既習知識と関連付けたり、文脈の中で指導したりすることが望まれる。ひとつの教授法に限らず、様々な方法での語彙学習が有効である。

ハノイには、現在日本語学習機関が25ヵ所²もあるが、現時点では1級対策コースがあるところはわずかVJCCとEIKOH 2ヶ所だけである。この2ヶ所とも一つのクラスが30人と人数が多い。実際には希望者はこれよりもずっと大勢いるが、入学できない状態である。2007年ハノイでの1級受験者は308人で、2008年ハノイでは1級申込者数は558人もいる。2ヶ所での学習者は約60人だとすると、2007年では約248人(80%)は自習に限られることが明白である。すなわち現状では学習者の需要に応えられない状態である。それでは、どうして1級コースを開設するセンターが少ないのか。教育機関側には1級レベルを担当できる教師がいないこと、また学生側からは1級レベルになったら信頼できる所ではないと勉強に行かないのが主な原因だそうである。1級レベルを担当できる教師はいないわけではなく、そのレベルになると優秀な日本語能力者不足の現状では通訳、翻訳など他の仕事で忙しいそうである。

以上のことから、去年の308人の受験者は主に自習していたことが分かった。この中には、日本での留学や仕事を終えた受験者も、もちろん多数いるであろう。

2. 日本語能力試験 1 級漢字・語彙レベルにふさわしい指導法

語彙の教師用日本語教育ハンドブック(1981)では次のように理解への指導と使用への指導方法を紹介している。前者には①翻訳による方法 ②学習者の母国語による説明 ③視覚による方法 ④日本語による説明、言い換え ⑤例文による方法がある。後者には①使用への誘導 ②類義語の確認 ③体系的指導 ④文法・漢字・発音・アクセントの指導 ⑤反覆練習その他である。

1 級指導方法は上記のすべての方法を応用し、使わなければならないと思われる。場合によって一つの単語に対して複数の方法を使うこともある。

2.1. 翻訳による方法

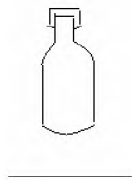
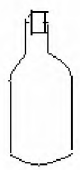
ベトナム語と日本語の意味が一致する場合は、時間の無駄のない効率的な方法といえるだろう。しかし、固有名詞、学術用語、専門用語、用途・種類の限られる物品の名前などを除いて、意味がぴったり一致する場合というのは非常に少ないのではないか。また、唯一の訳語を与える方法は、危険な場合も少なくない。1 級レベルではこの翻訳による方法はほとんど使えない。

² 筆者が調査したところ、ハノイには付録1のように約25ヵ所ある。

2.2. 視覚による方法

実物、写真、絵などを教室に持ち込んだり、教師が黒板に絵、図などをかいたり、ある動作をして見せたりして教える方法である。初歩の段階では、名詞、動詞、色、形などを表す語彙などを教える場合には効果的であろう。

この方法は初級段階にふさわしいが、1 級段階には適合し難い。1 級レベルになると抽象的な単語や難しい単語が多いからである。まったく使えないわけではないが、たとえば「ふた」と「栓」の違いを説明したときにホワイトボードに下記のような二つの絵を描いた。

	
ふた:ものの口を覆ったりふさいだりするもの	栓:管や容器などの口に差し込んで、中のものが濡れ出ないようにする物。

筆者がよく使った方法は下記のベトナム語による説明、日本語による説明、言い換えと例文による方法という 3 つの方法である。

2.3. ベトナム語による説明

この方法は効率よく説明できるから、筆者が指導したときによく使った方法であった。特に類義語を説明した時、日本語のそれぞれの類義語の例文を挙げた後、ベトナム語による明確かつ明瞭な説明を加えると学生はその微妙な違いが理解できる。

筆者のようなベトナム人の教師が学生と同じ言語の使用者である場合にはこの方法に問題はないが、教師が外国語で説明する場合、その言語が達者でないと、教師の説明が学生に理解できないということも起こりうるという欠点がある。もう一つの欠点はベトナム語による説明は日本語を聞く練習にならないということである。学習者の目的にもよるが、それだけ日本語を聞く時間が失われることによる損失があるわけである。この方法を使う場合はベトナム人の教師のほうが有利である。

2.4. 日本語による説明、言い換え

教師の日本語による説明を聞くこと自体が学習の一部になるという意味で優れた方法である。ただこの場合、教師の用いる日本語は学生の既習語彙であ

ることが必要条件である。初歩の段階では、使用できる語彙が少ないため、かなり困難だが、1 級のレベルでは適切な方法だと言える。教師が日本語で説明したあと、同じ内容を学生の母国語で繰り返すのも良いであろう。この方法は日本人の教師のほうが有利と思われる。

2.5. 例文による方法

場合によっては言葉で説明したり、他の語に言い換えたりするよりも、その語を使っていくつかの例文を挙げる方が理解しやすい。特に、擬態語の場合、例文で覚えることが最も効果的だと言える。副詞や副詞的な表現には、似たような言葉もたくさんあって覚えるのは大変である。「ざっと目を通す」「客がどっと押し寄せる」「じっと見つめる」などのように、その言葉だけでなく、あとに来る言葉と一緒にして意味を覚えるように指導した。

3. 日本語能力試験漢字・語彙 1 級レベル各種問題の具体的な指導法

筆者の場合は事前準備を始めたとき、あらゆる 1 級練習本及び全ての過去問（1994 年から 2007 年まで）に目を通し、よい問題を選び出した。担当したコースは全 10 回しかなかったので、1 級語彙の全部を説明する時間がないのは言うまでもない。それでは、何をどのように教えればよいのだろうか。単純に過去の問題を配り、学生にやらせたあとで解説するのは効果がある授業とは言えない。事前にプリントを配り、学生に家で自分が知っている単語と知らない単語をマークさせて、知らない単語をクラスで質問させるのもひとつの方法である。1 級の漢字・語彙は 7 問題が出題されるようになっている。問題毎の指導ポイントを紹介していきたい。

3.1. 問題 I : 漢字の読み方

例：

問題 I：次の文の下線をつけた言葉は、どのように読みますか。その読み方を、それぞれの 1・2・3・4 から一つ選びなさい。
問 1・その店は経営が危ぶまれているが、今月に入って黒字に転換し、借金の返済に追われる生活から脱することができた。

- | | | | | |
|------------|------------|------------|---------|---------|
| (1). 危ぶまれて | 1. あわうぶまれて | 2. あやぶまれて | | |
| | 3. あわぶまれて | 4. あやうぶまれて | | |
| (2). 転換 | 1. てんかん | 2. てんせん | 3. てんこう | 4. てんそう |
| (3). 返済 | 1. へんぜい | 2. へんせい | 3. へんさい | 4. へんざい |
| (4). 脱する | 1. さっする | 2. だっする | 3. ぜっする | 4. いっする |

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

問題 I は全 15 問である。そのうち、漢字 2 字の言葉、動詞、形容詞、名詞などがあるが、半分以上は漢字 2 字の言葉の読み方、つまり発音の問題である。

選択肢の中には音の似ている言葉や意味の似ている言葉があるので、要注意。また、2 つ以上の漢字がつながると読み方が変わることがあり、注意が必要である。漢字が「読める」だけでは十分ではなく、漢字がひらがなでどのように

書き表されるかを正確に知っていなければならない。長い音と短い音の区別、清音と濁音の区別、「っ」の有無、などの点についていつも意識し、正確に覚えていないと正解が出せない。ふだん、漢字の読み方を勉強するとき、ひらがなでも書くよう学生に注意した。

難しい訓読みの問題はひらがなを選ぶ問題のうちに入るが、特に例外的な読み方や連濁（後ろの漢字に濁点がつくこと）の問題がある。読み方の問題としては最も難しいものである。この場合、例外的な読み方を覚えるしかない。特別なノートを作るなどして集中的に覚えるように指導した。

3.2. 問題II： 同じ読み方の言葉

例：

問題 II： 次の文の下線をつけた言葉は、ひらがなでどう書きますか。同じひらがなで書く言葉を、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

(16) 自然のめぐみを享受する。

1. 真珠 2. 教授 3. 長寿 4. 巨樹

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

問題II は同音異義熟語の問題である。漢字の意味が違っていても同じ読み方をする言葉がある。同じ読み方でも意味が違いう言葉を同音異義語という。漢字の読み方を正確に覚えていないと間違えることになる。この問題は語の意味は関係なく読み方を知っていなければならない問題である。

3.3. 問題III： 漢字の書き方

例：

問題 III： 次の文の下線をつけた言葉は、どのような漢字を書きますか。その漢字をそれぞれの 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

問 1・このカードはじきをおびた物に近づけると、書き込まれているデータがしょうきよされてしまいます。

- (21). じき 1. 滋気 2. 磁気 3. 滋機 4. 磁機
(22). おびた 1. 触びた 2. 負びた 3. 携びた 4. 帯びた
(23). しょうきよ 1. 浄去 2. 消拒 3. 消去 4. 浄拒

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

問題 I と同じように、漢字2字の言葉、動詞、形容詞、名詞等の問題があるが、全15問のうち10問が漢字2字の言葉に関する問題である。選択肢にあげられている漢字には形が似ているものや同音異義語が含まれているから、十分注意して正解を選ばなくてはならない。

形の似ている漢字を見分ける問題では、「功」「巧」と「攻」、「観」、「歓」と「勸」などのように、部首の一部が同じ漢字の違いを問う問題がある。部首が同じ漢字は音読みも同じである場合が多いので、非常に間違えやすい。漢字を正確に覚えていなければならない問題である。それぞれの漢字の持つ意味を考えてヒントにする必要がある。問題の文にはひらがなが多いので、読み間違えないように十分な注意が必要である。ひらがなの読み間違いをしないように、問題文を小さな声でゆっくり 2、3 回読んでみると良いだろう。

3.4. 問題 IV : 同音異字

例 :

問題IV : 次の文の下線をつけた言葉の二重線_____の部分は、どのような漢字を書きますか。同じ漢字を使うものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

(36). この文はちゅうしょう的で、わかりにくい。

1. 犬は人間にちゅうじつだと言われる。
2. 矢が的にめいちゅうした。
3. ちゅうせんに当たって、CDをもらった。
4. ロケットでちゅううに行ってみた。

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

この問題は同音異字つまり同じ発音の漢字を使った言葉である。1 級の「漢字・語彙」の試験の中で一番難しいのが、この問題 IV というベトナム学生がたくさんいる。全部漢字で書く力がないと正解がわからないので、時間もかかるし、混乱すると、調子をくずしてしまう恐れがある。

漢字を十分学習してしっかり覚えておかないと、正解を選ぶことができない。問題文の語、選択肢の語、どちらもひらがなで出されるから、漢字の問題では難度の高い問題である。まず選択肢の四つの漢字を答案用紙のスペースに書いてみるといい。そうすれば、正解が見つけやすくなり、混乱やミスを防ぐこともできる。

3.5. 問題 V: 語彙選択問題

例 :

問題 V : 次の文の下線の部分に入れるのに最も適当なものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

(41). 彼の現在の苦しい立場を_____いただきたい。

1. 制して 2. 称して 3. 察して 4. 即して

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

問題 V は文の中の_____の部分に言葉を入れる問題である。選択肢は、同じ一つの漢字を含む類似語の場合が多い。特に、学生が期待するのは授業で教師が類義語を区別してくれることだろう。ここで問題になっている言葉は①漢字 2 字の言葉 ②形容詞 ③動詞 ④副詞 ⑤カタカナ ⑥特別な表現の 6 つに分けられる。形容詞は 2～3 問の割合で出題されている。ここでは特にひらがなで表すものが問題になっている。ひらがなの動詞が 2～3 問出題されている。副詞も同様に 2～3 問である。カタカナの問題は毎年必ず 1 問出る。

全 15 問のうち漢字 2 字の言葉は 5 問という高い割合で出題されている。意味が似ている言葉、同じ漢字を使った言葉、間違えやすい言葉を十分に指導しなければならない。

3.6. 問題 VI: 意味がたくさんある言葉

例:

問題 VI: 次の (56) から (60) の _____ の言葉の意味が、はじめの文と最もちがった意味で使われている文を、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

(56). の重い...重い地位につくほどストレスも増える。

1. 重い病気で入院している。
2. 重い荷物を持って手が疲れた。
3. 私に与えられた任務は非常に重かった。
4. 今日は体が重くて思うように動けない。

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

基本的な言葉でもいろいろな意味に使われる。どの意味で使われているか、それが問題である。多義語問題とはいろいろな意味をもつ言葉ということである。いろいろな意味がある言葉というのは、たとえば「手」や「足」などのように、よく使われる基本語彙が多い。ほとんどが 2 級以下の語彙なので、それほど難しい問題ではない。

3.7. 問題 VII: 言葉の正しい使い方の問題

例:

問題 VII: 次の (61) から (65) の言葉の使い方として最も適切なものを、それぞれの 1・2・3・4 から一つ選びなさい。

(61). 執着

1. 駅に執着したらすぐに連絡してください。
2. 彼は勝敗に執着するタイプだ。
3. お気に入りのセーターを毎日執着しています。
4. 船底にたくさんの貝が執着している。

(日本語能力試験 1 級 2007 年)

この問題は 2000 年から出題されるようになった新しい問題で、その言葉が正しく使われている文を選ぶものである。言葉の持つ意味を正しく理解していないと答えられない。な形容詞と副詞は必ず出題される。漢字 2 字の言葉が名詞または動詞の形で出題される。カタカナ語も出題される。使い方がわからない言葉があれば辞書で確認しておこう。

4. 教える際の留意点

4.1. 日本人の先生と母国語の先生

漢字・語彙は他の技能（文法、読解、聴解）と比べると学生の達成感を比較的に得やすい。日本語能力試験に合格するためには、やはり何とんでも漢字・語彙で高い点数を取ることが大事だと言える。漢字・語彙は勉強すればした分だけ確実に点数が上がるからである。

その一方で、1 級漢字・語彙を教えるのには準備量が大変である。言葉の数が多だけでなく、質も求められるからである。特に、学生の類義語の違いという質問に対してどう対応するか。類義語辞典の活用も重要である。

それでは、1 級レベルになったら、ベトナム人（母国語）の教師が担当したほうが良いか。それとも、日本人の教師が担当したほうが良いか。1 級レベルに於いては、言葉の説明は日本語でも理解でき、他の単語の復習にもなり、聴解

の練習にもつながる。無論、どうしても母国語でないと通じない単語がある。たとえば動物、植物の名前等である。また、学生に質問された場合や動物植物固有名詞などの場合に対応するためにできればベトナム語も考えておく。ただ、AイコールBではない場合つまり翻訳不均衡の場合、学生に聞かれたらどう対応するかもポイントになる。

前述のように、ハノイでは1級対策コースを開講しているのはVJCCとEIKOH 2ヶ所だけある。VJCCでは、漢字・語彙、文法、読解はベトナム人の教師が教え、聴解だけを日本人が担当するのに対して、EIKOHではすべての4つの技能とも日本人が担当する。上記のとおり日本人の教師でもベトナム人の教師でも問題ないといえるだろう。学生に「容易」「簡易」「簡素」「安易」「簡単」を区別してくださいませんかといきなり聞かれたことがある。皆さんだったら、上の4つの単語の違いをどう説明するでしょうか。日本人でもすぐにうまく応えられない人もいようだろう。

4.2. 語彙の量と質

1級レベルでは漢字2,000字程度、語彙10,000語程度の習得が必要であるが、藤原他(1997)によると、語彙を理解するにすぎない学習と各語の意味・用法に習熟し、適切に運用できる学習とでは、日本語力に差があることは明らかという。特に多義語と類義語の指導は大切である。個々の語を多義語の観点からとらえることによって、これまで断片的に習得してきた複数の意味を整理し直し、複数の意味の相互関係を多義構造として把握することによってその語の全体像が理解できるようになる。また、複数の類義語を比較検討することによって微妙な意味・用法の差を的確に把握し、個々の語に対する理解を深め、適切に使用することが可能になる。

日本語は、諸言語の中で比較的多くの言葉を覚えなくてはならない言語だとされており、森田(1986)によると、新聞や雑誌が自由に読みこなせるようになるためには、少なくとも3万語ぐらひは理解語彙がなくてはならないという。1級で1万語からすると、学習者は1級段階での学習を終了してからも、さらに膨大な語彙を学習していくことが必要である。そのため、学習者は日本語の語彙習得において、教育機関での教育を通じてだけでなく、自分で学習を継続していくことが必要になる。

語彙として覚えるだけでなく、場面・相手との関係に応じた使い分けが求められることが、語彙に対して難しいという意識を持たせる要因となっているのであろう。中・上級になればなるほど、日本人と同じ敬語使用、同じ応接態度が求められ、日本社会の中で円滑な人間関係を築くためには、その学習は避けては通れないものだと考えられる。擬音語・擬態語はその数の多さ、種類の複雑さが日本語の特徴のひとつである。

4.3. テストの効果

言葉というのは繰り返し使用暗記しないと忘れてしまうものなので、漢字・語彙の授業では毎回小テストが不可欠である。小テストの出題問題は前回の授業で触れた単語である。この小テストは10分以内で行ったが、かなり効果が出ると実感した。まず、学習者は、テストがあると復習しようとするため、学習の動機づけができる。また、学習意欲がテストにより高まる。学習者はテストで良い点を取ろうと努力するので、より一層、学習意欲が高まる。高得点であれば、クラス内の順位や教師のほめ言葉などが自信につながり、より積極的に学習を進められる。低得点の場合には自分の学習方法を反省して他の方法を研究することに繋がる。

小テストの問題を毎回準備しなければならないのは大変だが、行うことが望ましい。日本語能力試験の聴解授業や読解授業においては小テストは比較的難しいかもしれない。漢字・語彙の小テスト問題の作成のため、まず1級漢字・語彙問題集をインターネットからダウンロードし、各種参考本からもいったん全部を入力するようにした。問題I～VIIまで各問題は約500問揃えた問題集を作っておく。次はこの問題集からテストに出したい単語を検索する。この方法でやれば時間の節約になるし、自由に出題できる。皆さんも応用してみたらいかがだろう。

終りに

本研究は現場での試験対策指導の経験をもとに、日本語能力試験1級漢字・語彙の指導法についてまとめた。学生が対策コースを通して、力を高め、合格に必要な実力をつけることを期待している。1級レベルでは漢字・語彙7種の問題が出題される。この7種問題のそれぞれの指導法と教える際の留意点をいくつか紹介した。また、各語彙指導法の中でベトナム語による説明、日本語による説明、言い換え、及び例文による方法は効果的な方法であることを明らかにした。小テストが不可欠であることもわかった。本研究が受験準備講座のクラスを指導する方々にお役に立てれば幸いである。

謝辞

Nghiem Viet Huong先生に日本語能力試験の統計データ収集を手伝っていただきました。また、宇根祥夫先生、今井隆夫さんには原稿を読んでもらい貴重なコメントをいただきました。これらの方にお礼を申し上げます。

参考文献

- (1) 倉八順子「語句の指導」『日本語学の世界 日本語学 7 月臨時増刊号』明治書院 1996 年 (pp. 215-222)
- (2) 国際交流基金 『第 2 回日本語能力試験改定 中間報告』2008 年 6 月
- (3) 国際交流基金 日本語国際センター 『語彙 教師用日本語教育ハンドブック⑤』1981 年 (pp. 132-137)
- (4) 国際交流基金 日本語能力試験サイト <http://www.jlpt.jp/>
- (5) 谷口すみ子・赤堀侃司・任都栗新・杉村和枝「日本語学習者の語彙習得—語彙ネットワークの形成過程—」『日本語教育』84 号 1994 年 (pp. 78-91)
- (6) 中條和光・岡崎眸・岡崎繁雄「単語の記憶に及ぼすコミュニケーション活動の効果」『教育心理学研究』第 40 巻 1992 年 (pp. 87-94)
- (7) 藤原雅憲・舩山洋介 『上級日本語教育の方法 さまざまなアプローチ』凡人社 1997 年 (pp. 123-136)
- (8) 松岡龍美 『徹底分析日本語能力試験 漢字・語彙 1 級』国書刊行会 2005 年 (pp. 7)
- (9) 森田良行「初—中級移行過程における語彙教育」『講座日本語教育』第 2 分冊、早稲田大学語学教育研究、1986 年 (pp. 98-108)

付録：ハノイにおける日本語教育機関

1	ハノイ国家大学外国語大学
2	ハノイ大学日本語学部
3	ハノイ国家大学 人文社会科学大学 東洋学部
4	ハノイ工科大学外国語学部
5	ハノイ工科大学 ITSS 教育能力強化プロジェクト (HEDSPI)
6	ハノイ貿易大学日本語学部
7	ハノイ法律大学日本法教育研究センター
8	FPT 大学日本語学部
9	タンロン私立大学外国語大学
10	タンロン技術大学
11	フオンドン私立大学外国語学部
12	ベトナム日本人材協力センター (VJCC) (1 級対策コースがある)
13	Anh Sao 日本語センター
14	Eiko 日本語センター (1 級対策コースがある)
15	東北アジア 研究所 日本研究センター
16	ドンド日本語学校
17	JVNET 日本語センター
18	Nui Truc 日本語センター
19	Seiko 日本語センター
20	Sao Mai 外国語・情報技術教育センター
21	SJP 日本語センター
22	Viet Tri 教育開発及び留学生派遣センター
23	VNJP 日本語センター
24	Yuki 日本語センター
25	Zen 日本語センター